

再評価結果（平成15年度事業継続箇所）

担当課：都市・地域整備局街路課
 担当課長名：齊藤 親

事業名	もりやまほんどおり おぼたかどうきょう 都計守山本通線（小幡架道橋）		事業区分	踏切除却	事業主体	名古屋市
起終点	なごやしもりやまくおぼたみなみ おおもり 名古屋市守山区小幡南一丁目～大森二丁目			延長	1.9km	
事業概要	都市計画道路守山本通線と一般国道302号と交差する名鉄瀬戸線を高架化する限度額立体交差事業であり、本事業により9か所の踏切を除却し、踏切事故、ボトルネック踏切の解消と、12か所の架道橋を設けることで、地域分断の解消を図るものである。					
S63年度事業化	S31年度都市計画決定	H12年度用地着手	H20年度工事着手			
全体事業費	183億円	事業進捗率	9%	供用済延長	1.9km	
計画交通量	踏切交通遮断量：437,181台時/日					
費用便益分析結果	B/C： (事業全体) 5.1 (残事業)	総費用： (残事業)/(事業全体) / 136億円 （事業費：/136億円） 維持管理費：/ 億円	総便益： (残事業)/(事業全体) / 688億円 （走行時間短縮便益：/361億円） （走行費用減少便益：/64億円） （迂回交通減少便益：/263億円）	基準年： 平成13年		
感度分析の結果						
事業の効果等						
<ul style="list-style-type: none"> ・円滑なモビリティの確保〔踏切交通遮断量10,000台時/日以上踏切道の除却が期待される〕 ・個性ある地域の形成〔鉄道により一体的発展が阻害されている地区を解消する〕 						
関係する地方公共団体等の意見						
守山区公職者会より、ボトルネック踏切の早期除却を要望されている。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等						
国道302号東南部の整備が進み交通量が増大しており、迂回車両が周辺の生活道路に流入し、交通事故の増加などが問題となっている。						
事業の進捗状況、残事業の内容等						
現在仮線敷き（将来側道）の用地買収を行っており、用地取得率は20%。本体工事は未着工である。						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等						
仮線にて使用する側道については市単独費による施行であるが、厳しい財政状況の中、事業費の確保が、課題となっていることに加え、一部の用地買収について難航している。今後は予算確保及び用地買収について、市の内部及び、地権者に対し粘り強く交渉を続け、H18年には用地買収を完了したい。						
施設の構造や工法の変更等						
立体交差の形式について比較設計を行い、また国道事業と同時施工することで、事業費の削減、工期の短縮を図っている。						
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	ボトルネック踏切の解消、地域分断の解消など、事業効果が非常に高く、早期の事業完了が望まれている。					
事業概要図						

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものである。